

第2回 清須市自転車等対策協議会まとめ

1. 自転車等利用実態調査結果

(1) 自転車等駐車実態調査

- 調査日時 休日 5月26日(日) 9:00、12:00、15:00
- 平日 5月27日(月) 9:00、12:00、15:00、翌1:00

■調査対象 市内10駅

主な調査結果

調査項目	調査結果
乗入れ台数	乗入れ台数の多い駅・・・①新清洲駅 1,563 台、② J R 清洲駅 1,527 台、③ J R 枇杷島駅 1,193 台 (平日 1 2 時のピーク時)
過不足台数	不足している駅・・・ J R 清洲駅 210 台、新清洲駅 176 台 (平日 1 2 時のピーク時)
放置台数	放置台数の多い駅・・・①新清洲駅 152 台、②尾張星の宮駅 37 台、③ J R 枇杷島駅 29 台、④須ヶ口駅 18 台 (平日 1 2 時のピーク時)
増加台数・増加率	平日 9 時 (通勤通学がおよそ終わる時間) と平日 1 2 時 (私的利用が多くなる時間) の乗入れ増加台数の増加率・・・① J R 枇杷島駅 17%、②新清洲駅 15%、③西枇杷島駅・須ヶ口駅 13%、※市内 10 駅の平均 12%
乗入れ台数の割合	1 日の平均乗車数に対する乗入台数の多い駅・・・① J R 清洲駅 45%、②新清洲駅 42%、③ J R 枇杷島駅 34%、④西枇杷島駅 22%
深夜残留比率	平日ピーク時の台数に対する深夜残留台数の多い駅・・・①尾張星の宮駅 95%、②新川橋 63%、③西枇杷島駅 60%、④ J R 清洲駅 42%、⑤ J R 枇杷島駅 35%

(2) 自転車等駐車利用者アンケート調査結果

- 調査日時 5月27日(月) 16:00~22:00
- 調査場所 J R 枇杷島駅、J R 清洲駅、新清洲駅、下小田井駅

主なアンケート内容

問	回答
問1 駐車の主な目的	①通勤 52.3% ②通学 35.8% ③買物 4.3%など
問2 自転車駐車場へ停めた目的	①鉄道利用 86.4%、②駅周辺 12.6%
問3 利用回数、利用時間	利用回数・・・①週 5 回程度 56.0%、②週 6 回程度 17.6% 利用時間・・・7 時台が最も多い 駐車開始時間・・・午前 9 時までで全体 66%が駐車 駐車時間・・・11~12 時間が最も多い
問4 もし有料になった場合あなたは利用しますか	利用する 20.7%、条件次第 33.1%、利用しない 45.6% 利用しないと回答した人のうち 78%が徒歩と回答。
問5 有料化後に求める設備は	屋根 31.8%、スペースを広く 22.6%、照明を明るくしてほしい 14.1%、防犯カメラの設置 13.3%
問6 自転車の盗難経験	盗難経験有 29.1%、盗難経験なし 70.0%。駅周辺が最も多い。

●自転車駐車場利用者発生地分布

各駅とも 500～2,000mまでの距離が多く 2,000mを超える利用者は少ない。

2. 駐車問題への対応策

(1) 自転車等駐車場の需給バランス

問題点	課題と対策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅単位での過不足 ・ エリア別での線路での寸断 ・ 各駅の駐輪場別でのバランス 	駐車スペースの余裕駅への誘導、自転車利用動線の自転車駐車場の配置、有料化や遠い場所への屋根設置など。清須市における自転車の位置付けを明確にして、そのあり方を検討する必要がある。

(2) 市営駐車場の問題点

問題点	対応策
市有地が少ないため、恒久的な確保が難しい	他公共施設等における一部利用や借地、購入などで用地確保を検討していく必要がある。駅前整備を行う際、自転車等駐車場の設置の検討。
防犯性・安全性に問題がある	照明や防犯カメラの設置、入出管理ゲートで利用者以外の出入りを抑制。歩行者の安全を確保した駐車空間の実現。
利用者が求める自転車駐車施設になっていない	屋根の設置、ラック等の駐車スペースの確保。
利用者の多くが近距離（徒歩圏）からの利用である	徒歩圏の利用者に徒歩への転換を促す。遠距離利用者の駐車空間を確保。
放置されやすい環境が多い	放置禁止区域の指定、見直し。

【主な質疑】

■自転車駐車場と駐輪場の違いについて

⇒法律用語としては自転車駐車場を使用、一般的に駐輪場を使用意味は同じ。

■収容台数の基準は

⇒1台当たり40cm幅を基準としている。

■新清洲駅前のロータリー周辺の駐車については

⇒収容能力を上回る自転車のためやむを得ず駐車されている状態。

■自転車放置禁止区域指定のメリットは

⇒条例等で放置禁止区域を指定することにより市長の権限で放置自転車等を撤去することが可能となる。

■区画整理で廃止となる自転車等駐車場について

⇒区画整理事業内での計画はないが、鉄道会社、地元住民を含め協議が必要となる。

■資料1（第2回）のアンケートの集計結果の提案

駅別、距離等データの分析やグラフ化など

⇒ 補足資料